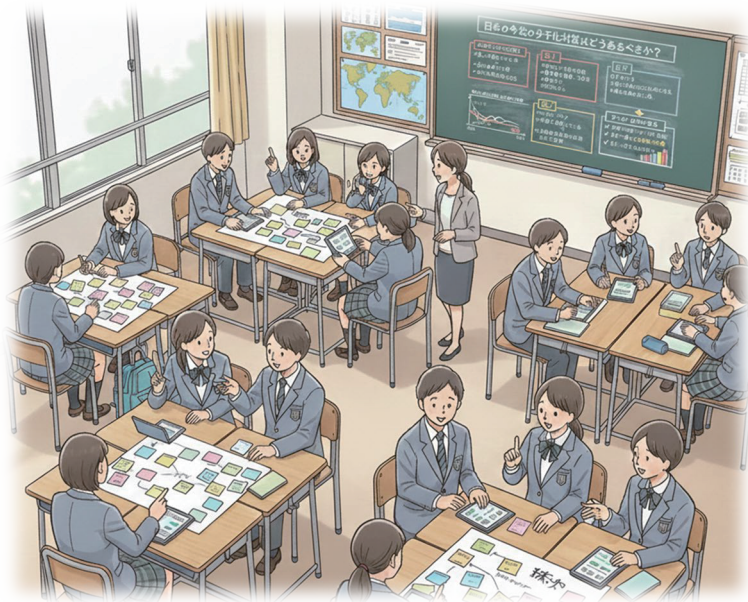
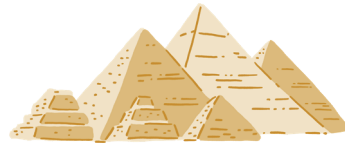


# 高等学校 地理歴史科、公民科 「探究的な学び」の授業実践事例集



※イラストは生成AIにて作成



## 💡 授業づくりのプロセスや学習活動の事例を紹介 💡

「探究的な学び」の授業づくりが分かる！ 学習活動の展開がイメージできる！  
生徒のよりよい学びにつながる！

# はじめに



「『探究的な学びが求められている』とよく聞くけれど、どのように探究的な学びの授業をつくり、実践していけばよいのかイメージが湧かない、、、」

そのような先生方の一助となるように、滋賀県総合教育センターでは、県内の五つの高等学校の地理歴史科、公民科(以下、地歴・公民科とします。)の先生方とともに「令和7年度高等学校探究的な学びプロジェクト研究」に取り組みました。その中で、地歴・公民科における探究的な学びのあり方や授業づくりの方法などについて検討し、実際に授業実践を行いました。この冊子では、研究成果を踏まえ、地歴・公民科における探究的な学びの授業づくりのプロセスや、授業実践での学習活動の展開について紹介しています。

地歴・公民科における探究的な学びについて一緒に考えていきましょう！

## 目次



### 統計編 . . . . . 1

🔍 地歴・公民科における探究的な学びに関するアンケート調査の結果について



### 理論編 . . . . . 1

🔍 地歴・公民科における探究的な学びの概要や授業づくりのプロセスについて



### 実践編

🔍 当センターの研究で実践した地歴・公民科における探究的な学びの授業実践事例について

- ①歴史総合(1) . . . . . 4  
 単元：日本の開国
- ②歴史総合(2) . . . . . 6  
 単元：日露戦争とアジア
- ③世界史探究 . . . . . 8  
 単元：イスラーム社会
- ④日本史探究 . . . . . 10  
 単元：太平洋戦争
- ⑤公共 . . . . . 12  
 単元：政治参加と公正な世論の形成



## 1 統計編

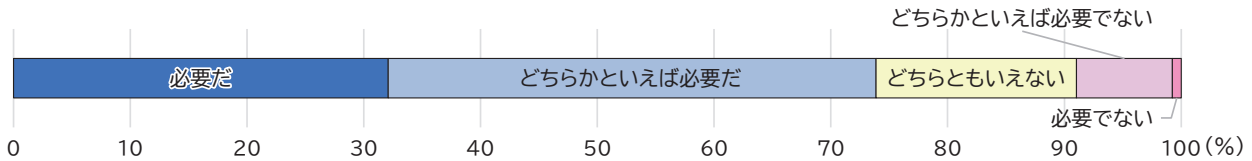
# 滋賀県内の地歴・公民科における 探究的な学びの実態

令和7年6月に県内の地歴・公民科の先生方を対象としたアンケートを実施し、多くの先生方から回答をいただきました。

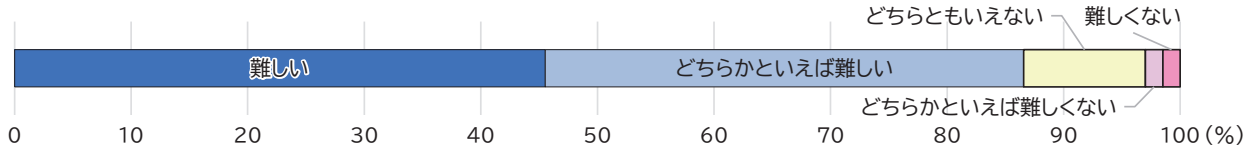


○アンケートの結果(一部) ※回答総数は134名

Q 探究的な学びが必要であると感じていますか？



Q 探究的な学びを取り入れることに難しさを感じていますか？



この結果から、探究的な学びの必要性は認識されている一方で、実践することに難しさを感じておられる先生方が多いということが分かりました。そこで、探究的な学びを実践しやすくすることを目指して研究に取り組みました。



## 2 理論編

# 地歴・公民科における探究的な学び

### 地歴・公民科における探究的な学びとは？

下図は、地歴・公民科における探究的な学び(以下、「探究的な学び」とします。)の学習過程を示したものです。「探究的な学び」は、「課題把握」「課題追究」「課題解決」「新たな課題」の大きく四つに分けられた学習過程から構成されています。ここに示された学習過程を参考に授業づくりをしていくことが大切です。

### 地歴・公民科における探究的な学びの学習過程のイメージ

主な学習過程の例	課題把握		課題追究		課題解決	新たな課題
	動機付け	方向付け	情報収集	考察・構想	まとめ	振り返り
●学習課題を設定する ・社会的事象等を知る ・気付きや疑問を出し合う ・課題意識を醸成する ・学習課題を設定する	●課題解決の見通しを持つ ・予想や仮説を立てる ・調査方法、追究方法を吟味する ・学習計画を立てる	●予想や仮説の検証に向けて調べる ・学校外での観察や調査などを通して調べる ・様々な種類の資料を活用して調べる ・他の児童生徒と情報を交換する	●社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察する ・多面的・多角的に考察する ・話し合う(討論等) ●社会に見られる課題を把握して解決に向けて構想する ・複数の立場の意見を踏まえて解決に向けて選択・判断する	●考察したことや構想したことをまとめる ・学習課題を振り返って結論をまとめる ・結論について他の児童生徒と話し合う ・学習課題についてレポートなどにまとめる	●学習を振り返って考察する ・自分の調べ方や学び方、結果を振り返る ・学習成果を学校外の他者に伝える ・新たな問い(課題)を見出したり追究したりする	

文部科学省中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」(平成28年12月)より作成

# 「探究的な学び」の授業づくりについて

当センターの研究では、「探究的な学び」の授業づくりを行いやすくするための手立てとして「探究計画シート」を開発しました。このシートを活用して授業づくりを行う方法をお示しします。



## (授業者の)教科・科目のねらい

教科・科目の学習全体を通して育成を目指す生徒の姿を、学習指導要領や生徒の実態を踏まえ、自分自身の授業観を見つめ直したり、これまでの実践を振り返ったりしながら構想します。



## 授業の意義・授業づくりの方針

授業で学ぶテーマを把握したうえで、教科・科目のねらいを意識しながら「なぜ学ぶ必要があるのか？」を考え、授業の意義を構想します。また、「教科・科目のねらいや授業の意義の実現のためには、どのような構成にするとよいか？」を考え、授業づくりの方針を定めます。



## 授業の目標・学習内容・学習方法

1や2を踏まえて、授業の目標を定めます。また、授業の目標を達成するために必要となる学習内容や学習方法を検討します。

## 学習課題

1～3で考えたことを踏まえ、学習課題を構想します。

## この授業までに学習しておく学習内容

生徒が、この授業の学習を進めていく際に、前提として理解しておく必要がある知識等を整理します。

## 記入例

探究計画シート		高校名 _____	授業者名 _____
教科・科目のねらい	現代社会の諸課題・諸問題を分析・考察できるための知識・技能・判断力(市民的資質)の育成		
科目名: 地理総合	日時: 1月16日(金) 3限	クラス: 2-1	
単元名: 世界の人口			
授業で学ぶテーマの把握		授業の意義・授業づくりの方針	
<ul style="list-style-type: none"> <li>先進諸国の人口問題の現状と対策の事例</li> <li>日本の人口問題の現状</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>人口問題(少子化)は日本において重要な社会的課題であり、社会で生きる市民として学ぶ必要がある。特に、日本が今後行うべき政策について考えていく必要がある。</li> <li>諸国の政策を批判的に吟味しながら、今後の日本の政策を意思決定する構成にすることで、将来の政策判断につながる学習を目指す。</li> </ul>	
授業の目標(どのような生徒の姿を目指すのか?)			
少子化に対する諸国の政策の利点と課題、日本の少子化の現状を踏まえて、日本において有効な少子化に対する政策について考察し、自分の考えを説明できる。【思考力・判断力・表現力等】			
学習内容 (どのような内容を、なぜ扱うのか?)		学習方法 (どのような方法を、なぜ用いるのか?)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の現状、スウェーデン、アメリカの政策を学習し、日本の今後の政策について考察する。</li> <li>スウェーデンは、高福祉高負担で少子化対策に一定の成功を収めた典型事例、アメリカは移民政策で少子化対策に一定の成功を収めた典型事例として日本の政策判断に有効であるため。また、日本の現状を的確に把握することで、有効な政策を判断することにつながるため。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>二つの学習方法を大事にしたい。</li> <li>①生徒が、資料をもとに学習課題に対する考えを自ら形成していく。</li> <li>→自ら考えを形成していく中で、社会の構造を読み解く視点や方法を身に付けていけるようにする。</li> <li>②生徒が、他者との協働を基に自分の考えをよりよいものにしていく。</li> <li>→他者との協働の中で、批判的・建設的な対話を行うことができる力を育成していけるようにする。</li> </ul>	
学習課題			
日本の今後の少子化対策はどうあるべきか?			
この授業までに学習しておく学習内容			
<ul style="list-style-type: none"> <li>世界における人口分布、人口増減の傾向、経済発展に伴う人口転換の様子、国家間の人口移動の様子</li> <li>発展途上国の人口問題とその対策の事例</li> <li>人口転換の際に先進国で起こる少子高齢化の概要</li> <li>合計特殊出生率の概念</li> </ul>			



## 学習活動の展開

シートの前半で構想した授業の全体構造を踏まえ、「地歴・公民科における探究的な学びの学習過程のイメージ」(p. 1を参照)も適宜参考にしながら、「課題把握」「課題追究」「課題解決」の各学習過程における学習活動の展開(問い・指導者の動き・資料・生徒への支援など)を計画します。なお、シートの前半とこの欄を行きつ戻りつしながら、授業の全体構造との整合性を意識して学習活動を計画していきます。

### 地歴・公民科における探究的な学びの学習過程のイメージ

主な学習過程の例	課題把握		課題追究		課題解決	新たな課題
	動機付け	方向付け	情報収集	考察・構想	まとめ	振り返り
	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習課題を設定する</li> <li>社会的事象等を知る</li> <li>気付きや疑問を出し</li> <li>課題意識を醸成する</li> <li>学習課題を設定する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題解決の見通しを持つ</li> <li>予想や仮説を立てる</li> <li>調査方法、追究方法を吟味する</li> <li>学習計画を立てる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>予想や仮説の検証に向けて調べる</li> <li>学校外での観察や調査などを通して調べる</li> <li>様々な種類の資料を活用して調べる</li> <li>他の児童生徒と情報を交換する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察する</li> <li>多面的・多角的に考察する</li> <li>話し合う(討論等)</li> <li>社会に見られる課題を把握して解決に向けて構想する</li> <li>複数の立場の意見を踏まえて解決に向けて選択・判断する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>考察したことや構想したことをまとめる</li> <li>学習課題を振り返って結論をまとめる</li> <li>結論について他の児童生徒と話し合う</li> <li>学習課題についてレポートなどにまとめる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習を振り返って考察する</li> <li>自分の調べ方や学び方、結果を振り返る</li> <li>学習成果を学校外の他者に伝える</li> <li>新たな問い(課題)を見出したり追究したりする</li> </ul>

### 学習活動の展開(問い・指導者の動き・資料・生徒への支援など)

#### 課題把握

- 少子化について知っていることやイメージをペアで挙げる。
- 「日本の少子化の現状はどのようなか?」「少子化は、なぜ「問題」なのか?」という問いに対して資料を基に考える。
- 日本は、先進国でも特に少子化が著しい国であることや、少子化が続くと経済成長が阻害されたり、社会保障制度が圧迫されたりするといった問題が発生することを理解する。
- 【資料】 主な国の合計特殊出生率の推移、今後の人口推移と経済成長の予測
- 「各国の合計特殊出生率を示した資料を見てどんなことに気付くか?どんな疑問をもつか?」という問いに対して考えたことを自由に入力してロイロノートで提出する。【資料】 主な国の合計特殊出生率の推移
- [指導者] 提出された疑問点や気付きをまとめながら、合計特殊出生率が日本よりも高く少子化対策が成功しているような国について研究することで、日本の今後を考えようという方向性で、学習課題とそれを考察するための問い(Q1~Q3)の提示に導く。
- 学習前の自分の考えを記述する。

#### 課題追究

- Q1 なぜ、日本の合計特殊出生率は低いのか?
- 日本の少子化の原因、現在行われている少子化対策などを調査・分析していく。
- 【資料】 各国の家族関係政府支出、日本の子ども一人当たりの年間養育費の推移、日本の少子化対策の概要とその評価、など
- Q2 なぜ、スウェーデンは日本よりも合計特殊出生率が高いのか?
- スウェーデンの政策の特徴や、デメリット、日本に導入する際の実現可能性を調査・分析していく。
- 【資料】 スウェーデンの少子化対策の概要、各国における社会保障負担と租税負担の国民所得に占める割合、各国の合計特殊出生率と家族関係政府支出、など
- Q3 なぜ、アメリカは日本よりも合計特殊出生率が高いのか?
- アメリカの合計特殊出生率が日本と比べ高い理由、その背景にある政策のデメリット、日本に導入する際の実現可能性を調査・分析していく。
- 【資料】 アメリカの人種別の合計特殊出生率の推移、アメリカに流入する移民の年齢、アメリカに流入する移民の出身国、各国の合計特殊出生率、など

#### 課題解決~これからも考え続けるための出発点~

- 日本の今後の少子化対策について、スウェーデン、アメリカの政策のメリット・デメリット、実現可能性などを基に意思決定し、自分の考えを記述する。
- グループで考えを共有し、アドバイスを出し合いながら、自分の考えをよりよいものにする。

## 「探究的な学び」の計画のポイント(一例)

### 課題把握

授業の意義との関連を意識して、生徒がそのテーマを学ぶ意義を実感できるようにすることが大切です。記入例では、少子化の実態を把握する学習活動に取り組む中で、生徒が問題の切実さを実感し、学習課題を自分事できるように計画しました。

### 課題追究・課題解決

自身が重視したい学習方法を実現できるように、具体的な学習活動を計画していくことが大切です。記入例では、生徒が自ら考えることと、他者と協働することを意識して具体的な学習活動を計画しました。

「探究計画シート」を活用することで、教科・科目のねらいを念頭に置いて、授業の全体構造や具体的な学習活動を計画できます!

p. 4からの実践編では、実際に授業実践を行った授業者の①~④に関する考えを示しながら、「探究的な学び」の授業実践事例を紹介していきます!





# 開国の要求への対応について 当時の議論を踏まえ意思決定する授業

## ●単元：日本の開国

### 授業者の教科・科目のねらい



- ・現代社会の諸問題を自分事として考え、自分なりの意見をもつことができる生徒の育成を目指す。

### 授業の意義・授業づくりの方針



授業者は、当時の日本では、アメリカの開国の要求への対応のあり方をめぐって議論が起きていたという歴史的事実に注目しました。そこで、「自分なりの意見をもつことができる生徒の育成」というねらいを意識しながら、「アメリカの開国の要求への対応をめぐる様々な主張を分析し、いずれの立場を支持するかを生徒自身が判断する(過去の社会における議論を追体験し自らの意思を決定する)構成にする」という授業づくりの方針を定めました。

### 授業の目標



- ・アメリカの開国の要求に対し、どのように対応するべきだったかを資料に基づいて考察し、自分の考えをまとめ表現することができる。【思考力・判断力・表現力等】
- ・グループでの議論を通して、他者の視点を取り入れながら学びを深めることができる。【学びに向かう力・人間性等】

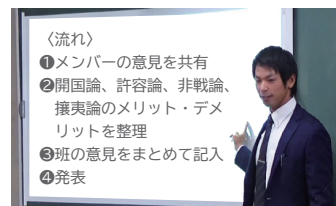
### 学習内容・学習方法




授業者は、授業の目標を達成するため、学習内容として、当時の日本社会に存在した、開国論、許容論、非戦論、攘夷論といった主張を扱うことにしました。また、「自分なりの意見をもつことができる生徒の育成」のためには、生徒が、①情報を収集する、②収集した情報を比較する、③他者の意見に触れ多角的な視点を得る、④最終的な自分の意見をまとめる、という四つの学習活動を段階的に行う必要があると考え、この四つの学習活動を軸に「探究的な学び」の授業の展開を計画しました。

### 授業者に聞く！「探究的な学び」のための工夫

「探究的な学び」の中で、史資料に基づいて、根拠をもって自分の意見を主張してほしいと考えました。そこで、当時の人々の主張を示した史料や、貿易に関わる資料などを用意し、生徒が史資料から情報を収集したり比較したりする時間を多く確保するようにしました。



↑学習の進め方を生徒と共有する授業者の様子

学習活動	
課題 把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時までの学習内容(欧米と東アジアの関係性や開国当時の日本の状況など)についてクイズ形式で確認する。</li> <li>・ 学習課題「あなたならアメリカの開国の要求に対してどのように対応するだろうか?」を確認する。</li> <li>・ ルーブリックを確認する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">A</p> <p>当時の日本や世界の状況を史資料から読み取り、根拠をもって、複数の立場から考察し、自分の考えをまとめることができる。また、自分とは異なる意見も尊重しながら、自分の考えを再構築することができる。</p> <p style="text-align: right; font-size: small;">↑授業で活用したルーブリック(一部)</p> </div>
課題 追究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アメリカの開国の要求に対して、当時の日本社会に存在した、開国論、許容論、非戦論、攘夷論の四種類の主張について、概要を確認したうえで、現段階で支持する主張について意見をまとめる。</li> <li>・ グループで意見を共有する。</li> <li>・ グループで分担して、四種類の主張のメリット・デメリットについて、資料*から情報を収集する。</li> </ul> <div style="background-color: #e0f0ff; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>【生徒の記述内容の一例】</p> <p>○許容論に関する情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ メリット 様々な国と貿易ができる。アメリカとの対立は避けられる。</li> <li>・ デメリット 物価が上がったり、不平等な条約を結ばされたりする可能性が高く、日本国内で混乱が発生する。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 収集した情報をグループで共有し比較する。</li> <li>・ グループで議論し、四種類の意見から一つを選択する。この時、理由も併せて考えるようにする。</li> <li>・ グループの意見を発表し、クラス全体で共有する。</li> </ul> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  <p>↑グループで議論する生徒の様子</p> </div>
課題 解決	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループでの議論や他グループの意見を踏まえて、個人で最終的な意見をまとめる。</li> </ul> <div style="background-color: #e0f0ff; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>【生徒の記述内容の一例】</p> <p>開国論の意見を聞いて、開国するメリットよりも不平等条約によるデメリットの方が大きいと思った。しかし、アメリカとの戦争は、勝てる見込みがなく、避けるべきだと考えてるので、許容論が妥当だと思った。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実際に幕府が選んだ対応について確認する。また、現代の日本と外国との関税に関わる諸課題を取り上げ、今回の学習が、現代の日本の諸課題を考えるヒントにもなることに気付く。</li> <li>・ ここまでの学習活動を振り返り、学んだことや新たな課題について記入する。</li> </ul>

※ 井上勲「幕末政治社会の形成—嘉永六年七月の諮問と答申をめぐって—」『学習院大学史料館紀要』9、平成9年(1997年)に掲載されている史料を現代語訳したうえで活用しました。



## 日露戦争が起きた要因を国際情勢の視点から 多角的に探究する授業

### ●単元：日露戦争とアジア

#### 授業者の教科・科目のねらい



- ・現代社会の諸問題を多面的に考察し、その背景や解決策について分析、考察する姿勢や力の育成を目指す。

#### 授業の意義・授業づくりの方針



授業者は、日露戦争が日本とロシアだけでなくイギリス、アメリカなどの国々の思惑の中で勃発し、展開していることに注目しました。そこで、生徒が日露戦争の学習を通して、「国家間の対立においては、当事国以外の国々の思惑も捉える必要があることを理解できるようにする」、また、その理解を通して「現代社会の紛争や政治的対立の背景や解決方法を考察する手がかりを得られるようにする」という授業づくりの方針を定めました。

#### 授業の目標



- ・日露戦争が勃発した背景について、列強の帝国主義政策やヨーロッパでの国家間の対立と結び付けて考察し、他者と協働して考えをまとめることができる。【思考力・判断力・表現力等】

#### 学習内容・学習方法



授業者は、授業の目標を達成するため、学習内容として、日露戦争に関わる列強(ロシア、イギリス、アメリカ)の思惑を重点的に扱うことにしました。また、社会的事象を分析、考察する姿勢や力を育成するためには、生徒が自ら分析、考察する経験を繰り返すことが大切だと考え、生徒が国際情勢の視点から日露戦争が勃発した背景に関わる情報を収集し、考察する学習活動を中心に授業を展開することを計画しました。

#### 授業者に聞く！「探究的な学び」のための工夫

「探究的な学び」の中で、自分で工夫しながら課題を解決していく姿勢を身に付けてほしいと考えました。そこで、一人でじっくり考えたり、他者の考えを聞いたりしながら、生徒が学習方法を適宜選択して学習を進められるように、「自分が一番良いと思う方法で学習を進めていこう」という声掛けを意識的に行いました。



↑最適な学習方法を適宜選択するように促す授業者の様子

	学習活動
<p>課題 把握</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本とロシアの対立に関わる風刺画※<sup>1</sup>を読み解き、日本とロシアが満洲・朝鮮の権益をめぐる対立していたことに気付く。</li> <li>日露戦争の風刺画※<sup>2</sup>(右図)を読み解き、イギリスとアメリカが干渉している理由を予想する。</li> <li>学習課題「日露戦争はなぜ起こったのか?」を確認する。</li> </ul> <div data-bbox="1066 264 1476 526" style="text-align: right;"> <p>↑日露戦争の風刺画のイメージ *著作権の都合で、生成AIを用いて要素のみを抽出したものを掲載</p> </div>
<p>課題 追究</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ロシア、日本、イギリス、アメリカのそれぞれの国の日露戦争に関わる思惑について、四か国のうち割り当てられた一か国の情報収集を行う。その情報を基に風刺画の人物にコメントを付ける。(個人ワーク)</li> <li>四か国それぞれの情報収集を行った生徒が集まり、情報を交換し、風刺画のすべての人物にコメントを付ける。(グループワーク)</li> </ul> <div data-bbox="933 810 1465 1064" style="text-align: right;"> <p>収集した情報を交換する生徒の様子→</p> </div> <div data-bbox="432 1093 1476 1326" style="background-color: #e0f0ff; padding: 10px;"> <p><b>【生徒の記述内容の一例】</b></p> <p>ロシア 「南下政策を進めるため、満洲の権益を確保したい」          日本 「イギリスとアメリカの後ろ盾があるからロシアと戦えそう」          イギリス 「ロシアの南下政策を止めてほしい」          アメリカ 「ロシアが満洲の権益を独占するのを止めてほしい」</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>「実際には日露戦争には参加していないドイツ、フランスを風刺画に付け足すなら、ロシア側、日本側のいずれになるだろうか?」という問いに対して考えをまとめ、他者と共有する。(グループワーク)</li> </ul> <div data-bbox="432 1518 1476 1796" style="background-color: #e0f0ff; padding: 10px;"> <p><b>【グループワークにおける生徒の発言の一例】</b></p> <p>「フランスは、露仏同盟でロシアに投資をしているから、資本の回収のためにロシア側につくと思う」          「ドイツは、黄禍論を唱えていて、ヨーロッパ諸国の目をアジアに向けさせたいはず。日本側とロシア側のどちらについてもメリット・デメリットがあるように思う」</p> </div>
<p>課題 解決</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習課題に対する最終的な自分の考えをまとめる。</li> <li>ここまでの学習活動を振り返り、学んだことや新たな課題について記入する。</li> </ul>

※1 フランスの日報『プチ・パリジャン』に1904年4月3日に掲載されたものを活用しました。  
 ※2 ジョルジュ・ビゴーが1904年に描いたものを活用しました。



## 過去の事象を手掛かりに 現代社会の共生について探究する授業

### ●単元：イスラーム社会

#### 授業者の教科・科目のねらい



- ・過去の事象を手掛かりに、対話を通して現代の諸問題を問い直すことができる生徒の育成を目指す。

#### 授業の意義・授業づくりの方針



授業者は、イスラーム社会では多民族の共生が成立していたことに注目し、「イスラーム社会における多民族の共生について学ぶことで、現代社会における共生のあり方を問い直すヒントが得られるため、学ぶ意義がある」と考えました。そこで、この授業の意義を意識しながら、「イスラーム社会の共生について学び、それを手掛かりにグローバル化が進む現代社会における共生のあり方について議論する構成にする」という授業づくりの方針を定めました。

#### 授業の目標



- ・イスラーム社会の共生のあり方を手掛かりに、現代社会の共生のあり方について問い直し、自分の考えを表現することができる。【思考力・判断力・表現力等】

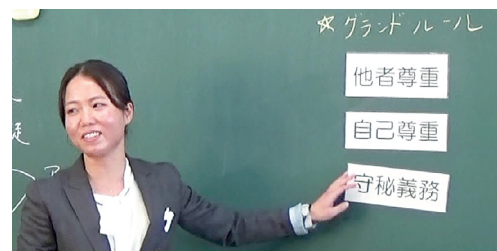
#### 学習内容・学習方法



授業者は、授業の目標を達成するため、学習内容として、イスラーム社会におけるムスリムと異教徒との互恵的な関係性での共生の様子と、現代社会における同化の傾向が強い共生の様子を扱うことにしました。また、生徒が現代社会の諸問題を問い直すことができるようになるためには、多角的に社会的事象を考察する力が必要だと考え、生徒が自ら情報を収集し、考察する学習活動を中心に授業を展開することを計画しました。さらに、生徒が多様な考えに触れることも大切であると考え、学習活動の中で、他者との対話を重視しました。




#### 授業者に聞く！「探究的な学び」のための工夫

「探究的な学び」の中で、生徒が他者との対話を基に考えを深めていく学習活動を実践しました。その際、他者との対話を促進するために「他者尊重、自己尊重、守秘義務」からなるグランドルール※を生徒と共有することで、心理的安全性の確保に努めました。



↑グランドルールを共有する授業者の様子

※生徒一人一人が安心して学びに参加するために、教室内で共有される基本的な約束のこと。

学習活動	
課題把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習課題「共生するとはどういうことか？」を確認する。</li> <li>・ 「共生と共存の違いは？」という問いに対して、具体例を基に考えながら、共生についてのイメージをもつ。</li> </ul>
課題追究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「イスラーム社会でムスリムと異教徒はどのような関係だったか？」という問いに対して、二つの資料※を基に考察し、自分の考えをまとめる。</li> <li>・ プリントを交換し、他者の考えに対するアドバイスや質問を記入し合う。</li> <li>・ 他者からのアドバイスや質問を基に自分の記述内容を振り返る。</li> <li>・ クラス全体で対話し考えを深める。</li> <li>・ 「現代社会はイスラーム社会のような共生ができていくといえるか？」という問いに対して、自分の考えをまとめる。</li> </ul> <div style="text-align: right;">  <p>↑円になってプリントを交換する生徒の様子</p> </div> <div style="background-color: #e0f0ff; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p><b>【生徒の記述内容の一例】</b></p> <p><b>姿</b>  日本にいる外国人に対して、日本のマナーを当たり前のように強要している場面も多いと思う。外国人には日本のことを理解するようにと言っているが、私たちは他国の文化をあまり知らないのが問題だ。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ クラス全体で対話し考えを深める。</li> </ul>
課題解決	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「課題把握」「課題追究」の学習内容を踏まえ、お互い支え合っているという関係性の中でお互いを尊重し合う共生が成立するという構図を理解する。</li> <li>・ 「もし、支え合っていると感じられなくなっても、共に生きる意味はあるだろうか？本当の意味で“共生する”とは、どういうことだと思いますか？」という問いに対して、自分の考えをまとめる。</li> </ul> <div style="background-color: #e0f0ff; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p><b>【生徒の記述内容の一例】</b></p> <p><b>姿</b>  異文化の人と交流する中で、新しい価値観に触れることができる点に共生する意味があると思う。支え合っていると感じられなくても、異文化から刺激を受けることはできるので、共に生きる意味はあると思う。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ クラス全体で対話し考えを深める。</li> </ul>

※ 田村愛理『《世界史リブレット》053.世界史のなかのマイノリティ』、山川出版社、平成9年(1997年)と、真道洋子『《世界史リブレット》076.イスラームの美術工芸』、山川出版社、平成16年(2004年)より引用し活用しました。



## 日本が太平洋戦争に至った背景を多角的に探究する授業

### ● 単元：太平洋戦争

#### 授業者の教科・科目のねらい



- ・歴史の学習を通して得た学びを基に、よりよい社会のあり方について考えることができる生徒の育成を目指す。

#### 授業の意義・授業づくりの方針



授業者は、当時の日本では戦争を支持する世論が一定程度存在したという歴史的事実に注目し、「戦争を支持した世論の背景を学ぶことで、今後のよりよい社会のあり方を考えるヒントが得られるため、学ぶ意義がある」と考えました。そこで、この授業の意義を意識しながら、「太平洋戦争に至る過程において日本人が戦争を支持した背景について、生徒自身が資料を基に考察していく構成にする」という授業づくりの方針を定めました。

#### 授業の目標



- ・太平洋戦争に至る過程で日本人が戦争を支持した理由について、複数の要因を関連付けて考察し、表現できる。【思考力・判断力・表現力等】

#### 学習内容・学習方法

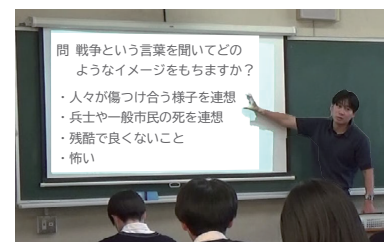


授業者は、授業の目標を達成するため、学習内容として、「満州事変」「軍部の台頭」「戦時体制下の生活」といった、日本人が戦争を支持した様子が顕著に表れる事象を扱うことにしました。また、生徒が対話する中で自分の考えをよりよくして行ってほしいと考え、知識構成型ジグソー法※を用いた学習活動を計画しました。


※3～4種類の資料が配付され、生徒はそのうち一つを担当して、内容を理解し、その後、担当した資料の内容をグループで説明し合い、異なる視点の知識を結び付けながら、学習課題に対する考えを協働的に構成していく学習方法

#### 授業者に聞く！「探究的な学び」のための工夫

生徒が学習課題を自分事にできるように工夫しました。具体的には、授業の冒頭で、事前アンケートの結果から、生徒の多くが戦争に対してマイナスのイメージを持っていることが分かる一方で、当時の様子を示した資料からは戦争を歓迎する雰囲気が読み取れることを提示し、自分の感覚と当時の様子とのギャップを浮き彫りにしました。



↑事前アンケートの結果を共有する授業者の様子

	学習活動
<p>課題 把握</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に収集した、戦争に対するイメージに関わるアンケートの結果を確認し、多くの生徒が、戦争についてマイナスのイメージを持っていることを理解する。</li> <li>・太平洋戦争の開戦時の日本の様子に関わる資料※1を読み、当時の日本では開戦を歓迎する雰囲気があったことを理解する。</li> <li>・学習課題「太平洋戦争に至る過程で日本人はなぜ戦争を支持したのか？」を確認する。</li> <li>・学習課題に対する、学習前の考えをまとめる。</li> </ul>
<p>課題 追究</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エキスパート活動                     <ul style="list-style-type: none"> <li>◇「満州事変」♡「軍部の台頭」◇「戦時体制下の生活」のうち、一つのテーマを割り当てられ、担当になったテーマについて資料※2から情報収集を行う。</li> </ul> </li> </ul> <div style="background-color: #e0f0ff; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【生徒の記述内容の一例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・◇…満州は当時の日本にとって経済の生命線と考えられていたため、国民は満州事変を支持したと考えられる。</li> <li>・♡…恐慌で国民の生活が苦しい中で、政府は汚職や政党間の足の引っ張り合いばかりだったため、国民は不満や失望を抱き、軍部に期待を寄せるようになったと考えられる。</li> <li>・◇…学校教育やメディアが軍部や戦争を支持し、「戦争は正しいこと」「国のために命をささげることは名誉である」という価値観が広められ、国民の間にも戦争への支持が浸透していったと考えられる。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジグソー活動                     <ul style="list-style-type: none"> <li>◇・♡・◇のそれぞれのテーマを担当した3人が集まり、収集した情報を共有しあい、異なる視点の知識を結び付けながら、学習課題に対する考えを深める。</li> </ul> </li> </ul> <p style="text-align: center;">エキスパート活動で収集した情報を共有する生徒の様子→</p> 
<p>課題 解決</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習課題に対する最終的な自分の考えをまとめる。</li> <li>・ここまでの学習活動を振り返り、学んだことや新たな課題について記入する。</li> </ul> <div style="background-color: #e0f0ff; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【生徒の記述内容の一例】</p> <p>国民を戦争賛成の意識に導いた原因といわれると、プロパガンダのイメージが強かったが、それ以前に、軍部が台頭していくまでにも国民による後押しがあり、その後プロパガンダの実行となるという点を見逃してしまいがちだと思った。歴史を流れとして捉える必要があると思った。</p> </div>

※1 砂川文次『[真珠湾]の日』、文春文庫、令和6年(2024年)より引用し活用しました。

※2 多数の資料を活用したため、紹介は割愛します。



## 今後の政治参加や民主主義のあり方について探究する授業

### ● 単元：政治参加と公正な世論の形成

#### 授業者の教科・科目のねらい



- ・民主主義の主体者としての自覚をもち、現代社会の諸問題に対して自分なりの意見を形成することができる生徒の育成を目指す。

#### 授業の意義・授業づくりの方針



授業者は、若者世代の政治参加が低調であるという問題状況に注目し、「問題の当事者である生徒が、政治参加のあり方について考えることで、主権者として主体的に社会に関わろうとする姿勢を養うことにつながるため、学ぶ意義がある」と考えました。そこで、この授業の意義を意識しながら、「今後の政治参加のあり方について、生徒が多様な言説に触れることを通して、自分の意見を形成していく構成にする」という授業づくりの方針を定めました。

#### 授業の目標



- ・今後の政治参加や民主主義のあり方について、当事者である自分たちの意識や行動を変えていく必要があるという立場から、資料を基に意見を述べるができる。【思考力・判断力・表現力等】
- ・社会を構成する一員としての自覚のもとに、今後の民主主義のあり方や自身の政治参加について主体的に考えようとするができる。【学びに向かう力・人間性等】

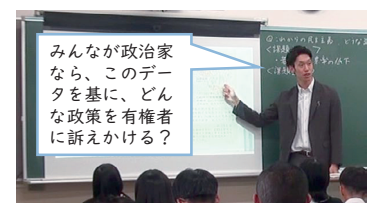
#### 学習内容・学習方法



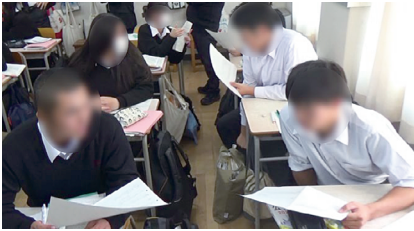

授業者は、授業の目標を達成するため、学習内容として、若者の政治的無関心の現状や、その結果生じるシルバー民主主義という状況、そして、近年注目されている「おまかせ民主主義」や「抽選制の議会」といった主張を扱うことにしました。また、生徒が自分の意見をもつことができるようになるためには、前提として、社会的事象を多角的に分析する力が必要であると考え、生徒が自ら情報を収集し、考察する学習活動を中心に授業を展開することを計画しました。

#### 授業者に聞く！「探究的な学び」のための工夫

生徒が、様々な視点に触れる中で、多角的に自分の意見を形成していったほしいと考えました。そこで、政治参加に懐疑的な立場である「抽選制の議会」についての資料も扱うなど、様々な立場の資料を生徒に提示し、生徒の思考を揺さぶることができるよう工夫しました。



↑資料を基に生徒に問いかける授業者の様子

	学習活動
課題把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習課題「民主主義社会の一員である私たちに今求められていることは何だろうか？様々な資料をもとに、自分自身の政治参加のあり方や今後の民主主義社会について考えよう」を確認する。</li> <li>・ 学習課題に対する学習前の考えをまとめる。</li> </ul>
課題追究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「日本の近年の選挙の動向はどうなっているのだろうか？」という問いに対して、近年の投票率の推移についての資料※1を基に自分の考えをまとめる。</li> <li>・ 「現在の世代別の有権者数と投票率を考慮した時、政治家や政党はどのような政策実現に力を注ぐ可能性が高いだろうか？」という問いに対して、年代別の有権者数と投票率の割合についての資料※1や世代別の投票の際に考慮した問題についての資料※2を基に自分の考えをまとめる。</li> <li>・ 「なぜ若者は投票に行かないのだろうか？」という問いに対して、棄権の理由についての資料※1を基に自分の考えをまとめる。</li> <li>・ 「政治的無関心の若者(国民)が増加する中で、今後の選挙や議会、民主主義そのもののあり方はどうなっていくのだろうか？」という問いに対して、「おまかせ民主主義」についての資料※3や「抽選制の議会」についての資料※4を基に自分の考えをまとめる。</li> <li>・ 「政治についてあまり分かっていない自分が選挙に行くよりも、よく分かっている人が選挙に行った方がよいのではないか？」「自分の一票くらいでは選挙の結果は変わらないから選挙に行かない、という考え方に対してどのような意見をもちますか？」などの問いに対して、ペアで対話しながら考える。</li> </ul> <div data-bbox="1050 1200 1465 1429" style="text-align: right;">  </div> <p data-bbox="1050 1435 1465 1462" style="text-align: right;">↑対話しながら考えを深める生徒の様子</p>
課題解決	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習課題に対する最終的な自分の意見をまとめる。</li> </ul> <div data-bbox="320 1630 411 1742" style="float: left; margin-right: 10px;">  </div> <div data-bbox="437 1552 1465 1823" style="background-color: #e0f0ff; padding: 10px;"> <p>【生徒の記述内容の一例】</p> <p>シルバー民主主義のままでは子育てや教育など、若者が抱える問題の解決にはつながりにくいと思うので、おまかせ民主主義になるのではなく、一人一人が国民としての自覚をもって政治に積極的に参加していくべきだと考えました。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ここまでの学習活動を振り返り、学んだことや新たな課題について記入する。</li> </ul>

※1 総務省『私たちが拓く日本の未来』、令和4年(2022年)に掲載の資料を活用しました。  
 ※2 第一学習社『高等学校 改訂版 公共』、令和3年(2021年)に掲載の資料を活用しました。  
 ※3 堀潤『「おまかせ民主主義」からの脱却』、情報・知識&オピニオン、平成26年(2014年)、<https://imidas.jp/jijikaitai/c-40-092-14-12-g551>、(2025年12月17日参照)より引用し活用しました。  
 ※4 ダーヴィッド・ヴァン・レイブルック『選挙制を疑う』、法政大学出版局、平成31年(2019年)より引用し活用しました。



この事例集を通して、「探究的な学び」の授業づくりのプロセスや、実際の学習活動の展開について、イメージをもっていただくことができたでしょうか。

本事例集で取り上げた「令和7年度高等学校探究的な学びプロジェクト研究」の詳細な情報については、滋賀県総合教育センターのWebページに掲載しています。研究論文や「探究計画シート」のほか、「探究的な学び」で活用できるワークシートなども掲載していますので、ぜひ御覧ください。

今後も、「探究的な学び」の充実のために、一緒に頑張っていきましょう！



**令和7年度高等学校探究的な学びプロジェクト研究についての情報はこちら**

主体的に学習に取り組む態度を養う高等学校の授業改善

ー地理歴史科、公民科における探究の過程を通じた学習活動の充実ー

研究論文や研究成果物、各種シートなどをダウンロードできます！

滋賀県総合教育センター 令和7年度研究成果情報

検索